

(家庭数配布)



国際理解教育講演会がありました。

6月9日(金)、以下をねらいとして、国際理解教育講演会を行いました。

- ・韓国の文化にふれ、韓国について興味を持たせる。
- ・互いの個性や文化を尊重し、互いを認め合う気持ちを持たせる。
- ・外国にルーツがある人への正しい理解と認識を深めさせる。

講師は昨年度と同じく豊中市教育委員会人権教育係・金生遵(キム センジュン)さんです。金さんご自身がお生まれになったのは日本、その後もずっと日本で生活をしてこられました。ただ、おじいさん、おばあさんが韓国のご出身で、ご家庭では韓国の習慣にもとづき育てられたそうです。日本で生活する中で、やはり様々なところで日本の習慣とは異なることが多く、金さんも子どもの頃は戸惑うことがとても多かったようです。韓国、日本、それぞれの習慣の違いはあるものの「どちらが正しいということではなく、違いを認め合い、お互いを尊重する心が大切だ。」と教えていただきました。

少し話はそれますが、このようなお話を聞かせていただく度に、私は教員に成り立ての頃、先輩の先生に教えていただいたことを改めて思い出します。それは「障害」についての考え方です。「国際理解」や「障害」については、正しい理解がなされないと、時に差別に繋がってしまうことがあるのです。先輩は次のようにお話をされていました。

「車椅子に乗っている人は障害者と言われる、一方、メガネをかけている人は障害者とは言われない。でも、脚が不自由だから車椅子を使っていることと、視力が弱いからメガネを使っていることは同じ。だから、障害者と健常者の間に線を引くことがおかしい。どちらも人間であることに変わりはないのだから。」と。

私自身も近眼ですので、「朝起きればまずメガネ」です。メガネがなければ生活できません。脚が不自由な方が移動のために車椅子を使うことと同じです。人それぞれ、何かしら不自由なことはあるものです。また、人に違いはあって当然。「違う」からと言って、差別を正当化する理由にはなりません。子どもたちも、これから様々な人に出会っていくことと思います。その中で「自分と違うことをまずは受け入れる」を心がけてほしいと思います。



金生遵さん



みんな真剣に聞いています。



最後には韓国の民族衣装も着させてもらいました。よくお似合いですね。

◇校長のつぶやきコーナー

健康のために数字を見ましょう。

私は職員に対し、「健康のために毎日数字を見ましょう。」と呼びかけています。「えっ、数字を見るって何？数字を見ると健康になれるの？」と思われますよね。これは「毎日、体重計に乗りましょう。」ということです。体重計には温情も何もありません。冷酷に自分の状態を突き付けてきます。人間はその何百万年の歴史の中で、すぐにエネルギーに変えられる糖、栄養を蓄えるための脂肪をより優先的に摂取するために、この2つを美味しく感じるよう進化したのでしょう。ただ、それは飢餓状態が長く続いたからです。今はこの糖と脂肪を何不自由なく得られるようになっていきます。ですから、今も本能のままに糖と脂肪を摂り続けてしまうと、生活習慣病発症という望まない結果を招いてしまうことに。こういう時こそ人間のみが持つ「理性」の働かせどころです。何よりもまず健康が大切、毎日体重計に乗り、その数字を見ることが大切ではないでしょうか。

※ただし、これは大人の話です。子どもの間は、将来に向けて健康な身体を作っていくことが求められますので、適度な運動とともに「必要な栄養をしっかり摂る」を心がけましょう。